

検定検査



No. 53

発行日 2025.8.29



公益社団法人
北海道酪農検定検査協会

発行人 荒井 義久



検定・検査情報の活用が、あなたの明日を支えます！

Contents 目次

1. 牛群検定が築いてきた50年の礎（前編） p 2
2. 2025年度「乳用牛改良」のポイント解説 p 4
3. 2026年1月 検定成績表が大幅リニューアル！ p 5
4. 困っていませんか？検定成績表の保管 p 8
5. 抗生物質残留事故を防ぎましょう p 9
6. 今後の行事予定 p10



<https://www.hmrt.or.jp>

牛群検定が築いてきた50年の礎^{いしづえ}

北海道の検定事業の歩み（前編）



現在の検定事業は1975年に始まり、2025年2月で50年が経過しました。検定事業は北海道酪農と共に発展してきましたが、制度として根付くまでには関係者の並々ならぬ努力がありました。

この節目に合わせて50年の歩みを前、後編の2回に分けて振り返ります。前編では、現在の検定事業が始まるまでの歴史を辿っていきます。

1 検定事業のはじまり

検定事業は1895年にデンマークで始まり、その後スウェーデン、アメリカへと広まりました。日本では1911年に日本蘭牛協会が登録事業を開始し、その一環として能力検定が開始されています。

北海道には、かつて「乳牛能力検定」と「乳牛経済検定」という二つの検定事業がありました。1975年には、それらが統合される形で現在の検定事業が誕生しました。

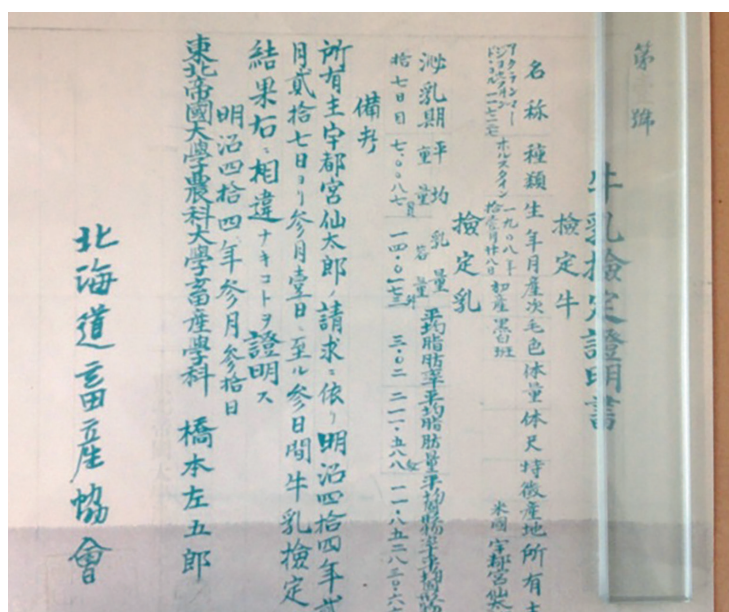


2 高能力牛の格付証明「乳牛能力検定」のはじまり

1918年、北海道畜産組合連合会が組織的な検定事業を開始します。その後、登録団体の変遷がありながら登録事業と共に継続されます。1948年には北海道ホルスタイン農協（日ホ北海道支局）が検定事業を継承し、1975年まで事業を発展させていきます。

同農協の職員が直接立会する検定から始まり、1956年に各地の登録委員が実施する検定、1964年からは農家が組合を組織し、相互に立会を行う制度も作られました。現在の全牛を対象とした検定とは異なり、高能力が期待される牛を選択し、能力を証明することを目的としていました。

道内初の検定成績表（1911年）



資料：旧町村牧場資料館

宇都宮仙太郎氏の所有する5頭が、3日間検定したもので、1頭ごとに乳量・脂肪率等が記載されています。

初代 ツルーテスト（1963年）



資料：(株)IDEC所有 初代ツルーテスト

当時、バケツからパイプラインへの移行期であり、従来の重量計に代わる器材が必要になりました。

3 経営改善に着目した「乳牛経済検定」

1951年、全国にさきがけて北海道で乳牛経済検定が開始されます。乳牛経済検定は、牛ごとの収支（経済性）を明確にし、不採算牛の淘汰によって経営改善を図るというものでした。

北海道の農業改良普及事業と密接に連携し、基礎的な酪農技術の普及にも貢献しました。

第1期 1951～1955年

農家自らが乳量や飼料給与量を毎日記帳し、検定指導員（普及員）が月1回の立会を実施しました。選択した牛の1頭ごとの飼養コストを算出し、飼料設計の指導も行われました。

第2期 1956～1958年

国と道は本格的に酪農振興を開始し、経済検定事業も制度が拡充されました。従来の第二種（個体）と第一種（群単位）の二本立てとなり、経営診断としての色合いを強めます。この時期に1,200組合、15,000戸まで飛躍的に事業規模が拡大しました。

第3期 1959～1974年

この時期、飼養頭数の増加により第二種（個体）の作業負担が増大し、煩わしさの軽減を目的にアメリカ方式が採用されます。従来の毎日の記帳から、月1回の測定によって乳量・乳脂量を算出する方式へと転換、現在の牛群検定の原型が作られます。1970年には普及率は51%（19,000戸）に到達しますが、補助事業に依存する体質からの脱却、酪農家の自主性が課題とされていました。



4 時代の変化と新しい検定事業

1970年代初頭、飼料価格の高騰やオイルショックが経営を圧迫し、酪農家戸数が大幅に減少しました。また、国民所得の向上に伴って牛肉需要が高まり、能力評価が行われないまま、乳用牛が食肉に転用される問題が出てきました。1974年、これらの打開策として農林省が補助事業を措置し、検定事業の本格的な普及に着手します。

当時の北海道内の動き

この時期、乳牛能力検定と乳牛経済検定の二つの検定を統合する議論が関係団体の間で行われていました。

人材や財源の課題は山積していましたが、1974年10月には道が実施する新しい検定事業の受託団体として（社）北海道乳牛検定協会が設立されます。

それと並行して、道内各地では検定組合の設立準備が急ピッチで進められました。1975年2月までに46組合が組織され、約2,700戸、検定牛47,000頭で新しい検定事業が開始されました。開始当初は、検定指導員の確保や財源不足など、多くの組合が産みの苦しみを経験しました。



当時の新聞記事からは、新制度への不安を抱えたまま事業が開始されたことが読み取れます。

次号では、電算処理の進展や新しい検定方法の登場など、事業開始から現在までの歩みを振り返ります。

2025年度「乳用牛改良」のポイント解説



7月4日に今年度の「乳用牛改良推進実施計画」が公表されました。
本計画は、2025年度の後代検定も含め、日本の改良の方向性を示す重要な指針となります。押さえておくべきポイントを確認していきましょう！

詳しく知りたい方は「乳用牛改良推進協議会」で検索！
(家畜改良事業団HPで公開)

乳用牛改良推進協議会

Q 検索



8月から「疾病抵抗性」の評価が始まります！

ゲノミック評価の信頼性向上により、遺伝率が低い形質を改良できる体制が整ってきました。

今年8月からは、6つの疾病（乳房炎、胎盤停滞、産褥熱、第四胃変位、乳熱、ケトーシス）の抵抗性と、これらを組み合わせた「疾病抵抗性指数」の評価が始まります。

ゲノミック評価にも対応しており、種雄牛と雌牛の両面から疾病抵抗性の改良を進めることが可能になります。詳細については、推進協議会から解説資料が示される予定です。



日本の飼養環境にマッチした評価値

海外の評価値は、日本の環境で飼養される牛に必ずしも当てはまるとは限りません。その点、今回の評価値は、北海道を含む複数の NOSAI から提供された国内の乳牛の、信頼性の高い記録が用いられます。



NTPの補足情報として利用しましょう

国内の評価値に限らず、疾病抵抗性は遺伝率の低い形質です。選抜の基準として単独で利用すると、生産能力が犠牲になるリスクがあります。



2月評価から「NTP(総合指数)」が変更されます

現在の NTP₂₀₂₄ は昨年8月に変更されました。大きさ指数の追加や、繁殖性・在群能力の重みを高めるなど、より生涯生産性を意識した指数に改良されたところです。

2025-2月評価では、「疾病抵抗性指数」の追加や、「乳脂量と乳蛋白質量の割合の見直し」が検討されています。新しい NTP の詳細は次号で報告する予定です。



2025 後検の概要

(調整交配期間：前期 11月～2月、後期 4月～7月)

近年、ゲノミック評価の活用により、能力の高い種雄牛を効率的に選抜する仕組みが構築されました。今年度はヤングサイア最大 80 頭の調整交配を行う計画ですが、参加頭数はさらに絞り込まれることが想定されます(2024 後検は 59 頭)。

また、長命連産性事業、ヌレ子事業(いずれも通称)など、今年度も調整交配精液が対象になる事業も措置されています。

後代検定に参加して、高い能力が期待されるヤングサイアをご活用ください！





2026 年 1 月 検定成績表が大幅リニューアル！



現行の検定成績表が世に出てから30年以上が経過し、乳量を追求する経営から、長命連産も重視する経営にシフトしつつあります。この間、Webでの情報提供を推進してきましたが、ひと目で農場の状況をつかめる成績表の需要も引き続き存在します。

そこで、周産期管理・繁殖管理・生涯生産性に関する新情報を盛り込みつつ、見やすさも兼ね備えた形へと、このたび成績表を大幅リニューアルします。



新しい成績表のポイント

※帳票は次ページ参照

①健康状態をモニタリングできる指標の追加

・・・・・・・・・・ 次ページの**緑枠**

ルーメンの健康状態の目安となるデノボ脂肪酸（デノボFA）と、潜在性ケトーシスの指標となるBHBを追加します。これらは**分娩前後のエサ設計や採食量が適切か**をモニタリングする材料となります。



②繁殖情報を大きく拡充

・・・・・・・・・・ 次ページの**赤枠**

経産牛の授精情報で、従来からの初回授精とその受胎率に加えて、「2回目以降の授精状況・受胎率」と「受胎までの平均授精回数」を掲載します。また、100日以上未授精牛や200日以上空胎の牛の頭数も追加しますので、授精や受胎にたどり着けていない頭数も把握できます。



③牛の除籍時期など収益に関わる情報を追加

・・・・・・・・・・ 次ページの**青枠**

分娩後間もない時期に除籍された牛の頭数を、「直近13カ月成績 牛群構成」に追加します（青枠A）。併せて「年間追加除籍牛 30日以内除籍」では、農場全体の除籍割合を確認できます（青枠B）。さらに、**除籍までの総乳量（通算乳量）**を産次ごとに掲載します。ここからは牛が生涯でどれほどの利益をもたらしたのかわかります（青枠C）。



※「個体検定日成績」も脂肪酸組成と BHB が、「個体累計成績」の方では通算成績が追加されるなど、検定成績表（牛群）に加えてこの2つもリニューアルします。

各項目の詳細については次号以降で解説していきます。ご期待ください



困っていませんか？ 検定成績表の保管

～ 日次帳票の発送は停止できます ～



こんなお悩みをお持ちの方

- 過去の成績表がどんどん増えてきて紙の保管が大変になってきた
- 成績はパソコンやスマホで確認しているから記録票だけ欲しい
- 検定終了通知書は必要なときに Web で取得するから紙はもう不要



これでスッキリ解決！ お困りの方はご検討を！！

毎月「紙」で届く帳票の発送は停止できます

- 「すべての帳票を停止」・「希望の帳票のみ停止」のいずれかを選択できます
- 発送停止の申込みはいつでも受付しています
※検定成績が確定していない場合は当月から発送を停止できます



発送停止の申込みは簡単 2 ステップ ↑↑

STEP
1

発送停止したい帳票を選択

日次帳票（4 種類）と検定終了通知書の停止ができます

希望の帳票だけ
停止できます

①
検定成績表

②
検定記録票

③
繁殖管理票

日次帳票
(4 種類)

④
泌乳経過表・
グラフ

検定終了通知書

※③④は申込農家のみ

STEP
2

検定組合へ連絡

検定組合が牛群検定 Web システムで登録すると次回発送から停止されます

帳票発送を停止したあとは？

- 成績表は牛群検定 Web システム/DL で確認・取得できます（過去の成績表は 2010 年度分～取得可能）
- メールでも成績表を受け取れます（Web システム「帳票メール通知」）※検定検査乳 s「No.48」を参照
- Excel 形式の「検定記録票」も利用できます ※検定組合へお問い合わせください

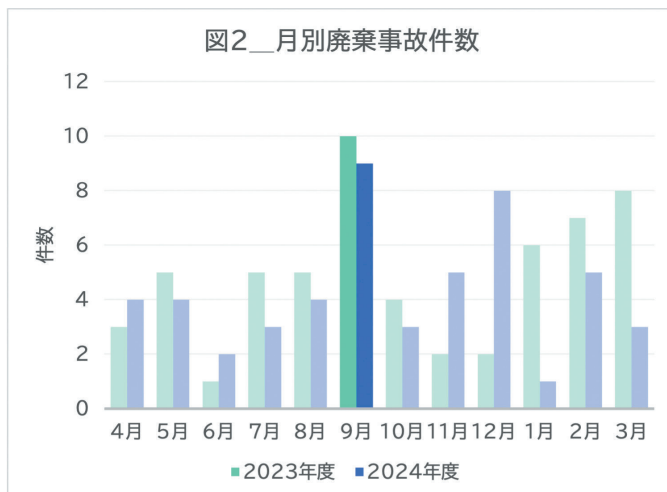
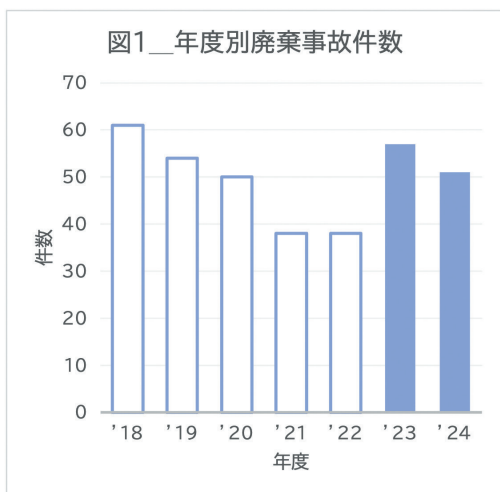
❓ 牛群検定 Web システムの ID・パスワードがわからない場合は検定組合へご確認ください

抗生物質残留事故を防ぎましょう ～自農場の対策が十分か再チェック～

1 抗生物質残留事故発生状況

抗生物質残留を原因とするローリーの廃棄事故件数は、2022 年度まで減少を続けていましたが、2023 年度に急激に増加しました（図 1）。2023 年度は記録的な猛暑に見舞われ、乳房炎が多発したことで、抗生物質を使用する頻度が増加し、結果として残留事故件数が増加したのではないかと推測されます。

また、2023、24 年度の月別発生状況を見ると、9 月に発生件数が多くなっています（図 2）。今年も同じようにならないよう、改めて残留事故防止のポイントを確認しておきましょう。



2 主要な事故発生原因と対策方法

原因

1

マーキングの見落とし

抗生物質混入の原因として一番多いのがマーキング見落としによる誤搾乳です。マーキングをきちんとしたつもりでも、時間経過でのスプレーの色あせや、バンドの脱落などがありますので、スプレーとバンドで2重のマーキングをすることも有効な手段です。

原因

2

誤投薬

治療したい牛とは異なる牛に誤って投薬し、その乳を誤搾乳してしまうことがあります。この場合、事故発生後に誤投薬された牛を探す必要があるため非常に苦勞します。治療の際には牛番号をしっかりと確認しましょう。

原因

3

連絡不足

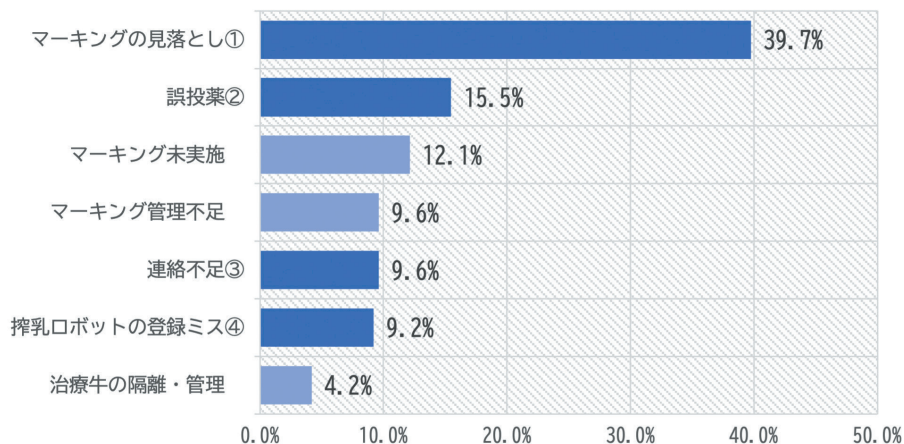
搾乳する人が投薬された牛だと知らずに搾ってしまうケースもよく見られます。マーキングの徹底と併せて、連絡体制を整えておくことも必要です。搾乳前にミーティングを行ったり、掲示板やカンバンを利用するのもよいでしょう。作業者が多い大規模農場やヘルパーを利用する場合などでは、より重要となります。

原因
4

搾乳ロボットの登録ミス

近年、搾乳ロボットの導入件数が増えてきた中で起きるようになったケースです。治療牛を登録することで、自動で登録牛の乳を廃棄するよう設定できますが、登録する牛番号を間違えたり、登録作業を忘れていたりすると廃棄事故に繋がってしまいます。治療に取り掛かる前に、必ずパソコンに登録することで、登録忘れを防ぎましょう。

図3 主要な事故発生原因割合（2019～2024年度集計）



3 その他の対策

抗生物質が残留した乳をバルクに入れないことが第一の目標ではありますが、それでも万が一誤搾乳してしまった場合に被害を最小限に抑える方法として、出荷前に迅速検査キットを使用することも選択肢のひとつです。一部地域では、このキットを使用開始したことでローリーの廃棄事故減少に大きな効果を挙げています。ただし検査キットは全ての薬剤を検出できる訳ではないので、使用方法やキットの特性をよく理解した上で使用しましょう。

今後の
行事予定

● 2025年9月29日～10月3日
2025年度 生乳取扱者技術認定講習会（札幌市）



乳検加入でメリットたくさん！
「お試し検定」で今すぐ体験！



乳検加入のご相談は、近隣の乳検組合まで

いまなら
6カ月無料

当機関誌に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。



公益社団法人
北海道酪農検定検査協会

総務部
TEL 011-271-4384

